

# 新岩手農業協同組合花<sup>か</sup>卉<sup>き</sup>生産部会が 27年度農林水産祭で天皇杯に輝く

市内でりんどう栽培に取り組む新岩手農業協同組合花卉生産部会（高村敏彦部会長）の活動が認められ、27年度農林水産祭園芸部門で最高賞の天皇杯に輝きました。

本市での天皇杯の受賞は、昭和63年に旧西根町の雨よけほうれんそうが受賞して以来で、同一市町村で2度受賞するのは、全国的にも珍しいことです。

## りんどう栽培の始まり

安代地区の組織的なりんどう生産は、昭和47年に、水田転換品目としてりんどうを栽培したのが始まり。若手生産者の皆さんが、栽培方法の確立、産地育成、販売対策などに組織的に取り組むため、安代町農協花き園芸生産部会を

※農林水産祭とは：農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善、経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会が共催し昭和37年から実施。農業、園芸、畜産などの7部門で、天皇杯と内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の各賞が授与されます。

組織し、さまざまな変遷を経て、平成24年2月に新岩手農業協同組合八幡平花卉生産部会となりました。

## オリジナル品種の開発

部会では、昭和61年から品種開発を始め、地域オリジナル品種第1号として「安代の秋」を育成（平成8年に登録）。



オリジナル品種「恋紅」

平成4年からは、安代町花き開発センター（現市花き研究開発センター）に新品種開発を引き継ぎ、オリジナル品種を活用した産地化が進められてきました。

品種開発は、部会員から研究開発費を集めて行われており、生産者が開発に携わる仕組みになっているのも特徴です。今では切り花30品種、鉢物9品種を実用化。昨年から、濃い赤色の「恋紅」の出荷も始まりました。

## 海外輸出とブランド化

部会創立30周年を機に、平成14年からは、オランダへの輸出に挑戦。鮮度保持や輸送費などの課題を解決しながら、プロモーション活動や販路開拓に励んでいます。

また、安代りんどうを海外で栽培・出荷する取り組みも進められており、季節が反対となる南半球のニュージーランド、チリの両国と周年出荷体制の構築や品種を共同開

発。両国の生産者が視察に訪れたり、本市生産者が海外に出向いたりして、定期的な情報交換などを行い、海外での安代りんどうのブランド化を進めています。

## りんどうの責任産地

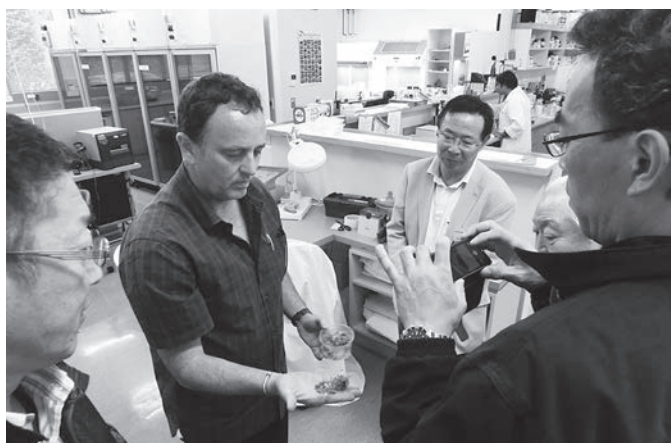
同部会では、生産者自らが一斉巡回をし、生育状況の確認や管理方法の指導をするほか、厳しい自主検査を行い、高品質で安定した供給ができる体制を確立。新規就農

者に対する指導体制も整っており、定期的な説明会なども行っています。

現在、安代りんどうは全国のりんどう栽培面積の約4分の1、出荷数量の約3割を占める責任産地となっています。平成17年以降は、10年連続して年間販売額10億円以上を達成。今回の天皇杯受賞により、部会の目標である年間販売額15億円達成に向け、今後さらなる発展が期待されています。



生産者が海外からの視察に対応し情報交換（平成24年10月11日、田山地内）



海外でのりんどう研究を視察（1月12日、ニュージーランド）



表彰式の壇上で天皇杯を手にする高村敏彦部会長（左）と表彰状を持つ八幡勉副部会長

### ◎安代りんどうについての問い合わせ先

#### ◆新規就農、各種補助事業関係

▶市農業振興支援センター【市役所内、☎74-2111（内線1341）】

#### ◆栽培関係

▶J A新しいわて八幡平営農経済センター（☎75-1111、花き担当）

▶J A新しいわて安代地区担当課（☎72-3111、花き担当）

▶八幡平農業改良普及センター（☎75-2233、花き担当）